

川上奨学金報告書

タイトル

アイドルじゃなくてユニドル：日本一のアイドルダンスを目指す青春に向けて

論文概要

まず、ユニドルとは、「ユニバーシティアイドル」の略で、「普通的女子大生が、一夜限りのアイドルとしてステージに立つ」をコンセプトとしたアイドルのコピーダンスイベントのことである。

私がこのテーマで論文を執筆しようと思ったのは、私自身がこのイベントに出場していた際に、ユニドルに出場している女子大生が周りの人々からアイドルだと思われることに違和感を抱いたからである。なぜなら、ユニドルのホームページ上には「女子大生でアイドル活動をしている人をユニドルとは呼称しません」と記載しているからだ。

そこで、本論文では、ユニドルに出場する女子大生はアイドルなのか、ということ明らかにするために、文献調査および、ユニドル出場経験のある女子大学生 4 人とユニドル実行委員会の男子大学生 1 人にインタビュー調査を行った。

第 1 章では、文献調査を行った。まず、本論文におけるアイドルを「偶像、あこがれの対象であり、成長過程を見せてくれる存在」と定義した。そして、ユニドルが女子大生や、イベントを見に来る人々に受け入れられたのは、ユニドルが現在のアイドルによるダンスの特徴を取り入れたイベントであること、さらに、インターネットの発達やアイドルアニメの普及に負うところが大きいことがわかった。つまり、日本の社会や文化と大きな関わりがあるといえよう。

第 2 章では、5 人のインタビューの調査方法と調査概要、そして今までの出場経験などを含めたプロフィールをまとめた。今回の調査でのインタビュー全員が大学 1 年生の時からユニドルのイベントに携わり、積極的に活動を行っていた。

第 3 章では、インタビューの調査結果をまとめた。ユニドル出場者のはじめたきっかけは、アイドルのコピーダンスがしたかった、アイドルを体験できるから、など様々であったが、インタビュー全員がユニドル出場者をアイドルだとは思ってほしくないという思いを持っていることがわかった。それはつまり、ユニドルとは、大学生という枠の中で行われるコピーダンスのイベントであることを強く意識しているからであると考えられた。

第 4 章では、まとめと考察を行った。「ユニドルに出場する女子大生はアイドルなのか」という問いについては、ユニドル出場者がアイドルと勘違いされやすい模擬アイドルのような現状におかれており、「アイドル化の方向に進んでいる」という答えを得た。

つまり、ステージパフォーマンス、SNS 活動、チェキ会をキーワードとして、アイドル化の課題が提示されたといえる。そこで、これらの課題を解決するために、個人の SNS 活

動の利用を制限すること、イベントでのチェキ会をなくすことによって、アイドル化することを防ぐことができるのではないかと考えた。また、ステージでのパフォーマンスにおいては、アイドルダンスにいかになら近づけられるかが評価されており、この点はユニドルの性格上はずすことができない。しかし、ユニドルでは衣装や演出も自分たちで考えることができる。つまり、それがユニドルの大きな特徴であり、独自性なのである。そのことを出場者や観客により理解してもらうことで、ユニドルがアイドルのコピーダンスイベントであるという認識が広まるのではないかと考えられる。

また、その他の具体的な改善案として3つの例を挙げた。1つ目は、ユニドルというイベントのコンセプトを広めるための活動である。そうすることによって、ユニドルがコピーダンスイベントであるということを広く認識してもらえるようになるからである。2つ目は、「ユニドルらしさ」を取り入れた評価ができるようにするために、審査員の中に大学を卒業したユニドル出場経験者を入れることである。3つ目は、優勝・準優勝・3位以外の賞にも副賞をつけるなどして、出場者が演出で賞をとりたいと思わせるようにすることである。ユニドルはアイドルのコピーダンスイベントであるが、

そして、ユニドルにおけるアイドルとは何かを改めて考えた。ユニドル出場者は、特に家族や友人、同じ世代の大学生などに勇気や元気を与えることができる存在であり、応援してくれる人がいるからこそ輝ける存在であるという点に、突出していると考えられた。

謝辞

今回この調査のために奨学金をいただいたおかげで、心置きなくユニドルの観覧に行くことができました。進化していくイベントを毎回目の当たりにすることで、それを論文に活かすことができました。本当にありがとうございました。